



地下墓所の 殉教者

古代ローマの物語

MARTYR OF THE CATACOMBS

A Tale of Ancient Rome



伝道出版社

MARTYR
OF THE
CATACOMBS

A Tale of Ancient Rome

Evangelical Publishers
Tokyo, Japan

死に至るまで忠実でありなさい。

そうすれば、わたしはあなたにいのちの冠を与えよう。

黙示録二章一〇節

目次

	まえがき	7
第一章	コロセウム	9
第二章	親衛隊の宿営	23
第三章	アッピア街道	32
第四章	地下墓所（カタコンベ）	42
第五章	クリスチャンの秘訣 <small>ひけつ</small>	53
第六章	雲のごとき証人たち	65
第七章	信仰告白	86
第八章	地下墓所での生活	96
第九章	迫害	109
第十章	逮捕	119

第十一章	親友の願い	129
第十二章	ポリオの裁判	139
第十三章	ポリオの死	148
第十四章	誘惑	157
第十五章	ルクルス	166

まえがき

これは作者不明の物語です。「地下墓所の殉教者——古代ローマの物語——」がイギリスで出版されたのは、今から百五十年ほど前のことです。そのうちの一冊が、沈没したアメリカ帆船の中から発見されました。リチャード・ロバーツ船長率いる船がハリケーンのために難船したのは、一八七六年一月のことです。その本が慎重に校訂され、一九四六年ごろアメリカで出版されました。

弊社は一九六一年に日本語版を出版し、第七刷まで発行するに至りましたが、諸事情により、長らく品切れとなっていました。このたび多くの読者のご要望にお応えするかたちで、このように新版を発行するよう導かれました。

この物語は、紀元二五〇年ごろのローマ皇帝デキウスによる迫害が背景となっています。当時の聖徒たちは、黙示録の二章に出てくるスミルナの教会のごとく、大変な苦難に遭いながら、それを主イエス・キリストのために耐え忍びました。この「なまぬるい」時代に、本書が主によって用いられることを願っています。すべての信者に、そして信者の子どもたちにも読まれますように。

私たちも、「主イエスよ。すぐに来てください」と祈り続けることができますように。

新版を発行するにあたり、地名や人名などの固有名詞は、歴史的背景を踏まえたうえで、できる限りラテン語式の読み方に改めました。しかしながら、一般的慣用や、日本語聖書で用いられている呼称などの関係で、必ずしも統一されていない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

伝道出版社編集部

第一章 コロセウム

虐殺劇が催されたローマの休日

ローマで大規模なイベントが行われた日のことである。おびただししい人の波が四方八方から押し寄せ、同じ目的地向かかっていった。カピトリヌスの丘を越え、フォルムと呼ばれる公共広場を通り、平和の神殿、ティトゥスの凱旋門、皇帝の宮殿を過ぎて、ようやくコロセウムに到着すると、人々はいくつもの扉の向こうへ姿を消した。

そこには驚くべき光景が広がっていた。巨大な円形闘技場が下のほうにあり、それを取り囲むようにして無数の座席が設けられていた。座席は、高さが五十メートルもある外壁の最上部に向かって、ひな壇式に並んでいた。観客席は、あらゆる階級、あらゆる年齢の人々で埋まり、だれもが険しい表情を浮かべていた。その列は、もつとも高い所にある座席まで延々と続いていた。これほど目を見張る光景は、どこにもなかった。このローマ最大のコロセウムは、見る者に畏怖の念を抱かせた。五万人以上の人々が同一の感情にあおられ、唯一の熱情に駆りたてられて、この場に集まっ

た。それは血に飢えた思いであり、その思いが彼らをここに引き寄せたのである。古代ローマ文明に関する記録の中で、この一大行事ほど悲しいものは、ほかに何一つ見いだすことができない。

観客の中には、戦争で手柄を立てたことのある勇士たちもいたが、人々が卑劣なやり方で虐待されるのを見ても、何の憤りも感じなかった。由緒ある家柄の者たちもいたが、このような残忍な見せ物が自国の名誉を汚すとは思ってもみなかった。詩人や哲学者もいれば、司祭や為政者もいた。身分の高い者から低い者まで、客席は満員だった。貴族も平民も同じように熱狂的に声を張り上げ、拍手喝采した。人々は、むごたらしい残酷な行為に熱中していた。このようなローマに、どんな希望があったと言うのだろうか。

特等席にはローマ皇帝デキウスがすわり、その近くに、国のおもだった人々が集まっていた。親衛隊に属する将校たちもいたが、彼らは、まるで鑑定家のように目の前の出来事を批評していた。さらびやかな服を着て、お祭り気分が高笑いしていたため、彼らは周囲の注目的になっていた。前座の見せ物が終わり、いよいよ試合が始まった。刃で切り合う接近戦が繰り返され、どちらかが致命傷を負うことで決着がついた。戦う者が勇敢だったり、刀さばきが見事だったりした場合に限って、観客は盛り上がった。そのような試合は、ますます観客の欲望をかき立てた。人々は、もつとエキサイティングな場面を切望し、そのあとの試合を待ちこがれた。

ある男が登場すると、観衆は拍手喝采した。彼はモーリタニア出身のアフリカ人で、巨人のよう